



生物多様性会議 COP10 に向けて スウェーデン自然学校の先生たちが日本へ

2010年3月22日—4月2日

主催：持続可能なスウェーデン協会

協力：スウェーデン自然学校協会

背景

国連持続可能な開発のための教育の10年(ESD10年)

日本により提唱されたESD10年(UN Decade of Education for Sustainable Development, 2005年-2014年)には、日本にもスウェーデンにも多くのサポーターがいます。

持続可能なスウェーデン協会(Sustainable Sweden Association)は、ESD10年への貢献として、スウェーデンを訪問する日本人と日本を訪問するスウェーデン人に多くの学びの機会を提供してきました。

ESD10年を締めくくる最後の公式国際会議が日本で開かれることになりそうです。日本の様々な市民団体がESD10年の後半、ESD (Education for Sustainable Development)に関する知識や意識を高めるため多くのイベントを計画しています。

生物多様性条約

2010年10月、生物多様性条約第10回締約国会議「COP10」が名古屋市で開かれます。国際社会が日本に注目する中で、自然保護と生物多様性をテーマにした多くのイベントが開催されます。

私たちの狙い

野外教育の学び合い

これらのことを背景に持続可能なスウェーデン協会は、学校教育において自然が教室として、教材として重要であることを強調したいと考えています。スウェーデンでは、野外教育が公立学校の教育に組み込まれています。日本では、野外教育が学校現場以外のところで発展していますが、教育制度には組み込まれていないようです。

私たちは、ESDに関する注目を高めることで、COP10に向けた議論を盛り上げていきたいと考えています。このような目的のために、スウェーデン自然学校協会の協力を得て、スウェーデンの自然学校の経験豊富な先生の来日を企画することにしました。この企画には講演、視察、ディスカッションなどが含まれる予定です。日本の多くの協力者と共に、多くの方々に学び合いの交流に参加するチャンスを提供したいと考えています。

2010年1月18日

Lena Lindahl (レーナ・リンダル)

持続可能なスウェーデン協会

日本代表

東京

VZQ11450@nifty.ne.jp

Barbro Kalla (バルブロ・カッラ)

持続可能なスウェーデン協会

コーディネーター、教育プロジェクト

Umeå (ウーメオ、スウェーデン)

barbro@esam.se